

令和4年度（2022年度）第6回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和5年（2023年度）3月11日（土） 9：30～12：00
場 所	みなみ野小学校2階 家庭科室
出席者	参加者：荒井、遠藤、大倉、大淵、大山、川崎、小井戸、田谷、野牧、橋山、平野、山城 高齢者あんしん相談センター片倉：安藤 社会福祉協議会：大和 八王子地域 PAL-ETTE：打越、守屋 住宅政策課：上原、池田 南大沢保健福祉センター：黒田 未来デザイン室：野田、安齋 エックス都市研究所：田中、橋爪、高橋
配布資料	第6回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 みなみ野中学校区地域づくり推進計画 中間取りまとめ（案） 資料2 長房中学校区地域づくり推進計画（改訂版）（案） 八王子市空き家マッチング支援事業の利用にあたって 空き家マッチング支援事業利用希望者登録申請書 八王子市空き家マッチング支援事業の利用にあたって 包括片倉圏域地区診断結果 第5回みなみ野中学校区地域づくり推進会議議事概要（案）

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 市からの情報提供

資料をもとに、「八王子市空き家マッチング支援事業」「包括南大沢圏域地区診断結果」について市の担当課から説明した。説明概要と質疑の内容は、以下のとおり。

（1）八王子市空き家マッチング支援事業について

（説明内容）

- ・地域活動に使える空き家がないかと、問い合わせを多くいただいている。また、空き家所有者からも、今すぐに売却することはできないため、地域で活用してもらいたいと相談を受けている。このような状況を踏まえ、空き家を探している地域団体と空き家の活用を検討している空き家所有者を結びつける支援策として、八王子市住宅政策課では「八王子市空き家マッチング支援事業」を開始する。
- ・市のホームページ上でマッチングサイトを作成・公開をする予定である。そのサイトには、「提供空き家データベース」と「利用希望者データベース」があり、各データベースからニーズにマッチする物件を探してもらい、市に相手方の連絡先を問い合わせ、相手方に直接、連絡していただく流れになる。

- ・利用する際は、事前登録が必要であり、電子メールで対応できること等、登録には一定の要件がある。詳細は、「八王子市空き家マッチング支援事業のご案内」チラシ裏面を参照していただき、不明点は住宅政策課に問い合わせていただきたい。
- ・マッチングサイトは3月中旬頃の公開予定である。サイト公開前に空き家の利用、提供を検討している方がいれば、「空き家マッチング支援事業利用希望者登録申請書」に記入し、提出いただきたい。

(質疑内容)

- ・利用申請書には、団体名を記入する欄があるが、利用登録は法人でなければならないのか。
⇒個人でも、任意団体でも可能である。(住宅政策課)
- ・利用料を支払う場合もあるのか。その場合、いくらぐらいになるのか。
⇒基本的に無償で貸したいと考える人は少なく、固定資産税相当額程度を支払うことを想定している。(住宅政策課)
- ・対象となる空き家に集合住宅は含まれているのか。
⇒対象外である。今回は戸建て住宅を対象としており、オーナーがどうしても貸し出したいということであれば相談に応じたい。(住宅政策課)
- ・空き家を活用して収益を上げる事業を行っても大丈夫か。
⇒地域のためにつながる事業であることが望ましいが、収益を上げること自体を禁止しているわけではない。(住宅政策課)

(2) 包括片倉圏域地区診断結果について

(説明内容)

- ・みなみ野での後期高齢者健診受診率は26%であり、市全体では40%であるため、受診率が低い地域である。後期高齢者の中には、普段から病院にかかっているため、健診を受けなくてもよいだろうと思っている人も多いと思う。
- ・有所見率は、市全体と比べて、みなみ野での特徴は特にないが、血圧の有所見率が比較的高い。
- ・市全体のデータではあるが、閉じこもり者割合や口腔機能低下者割合が、大規模都市の平均と比べて高い。口腔機能が低下することで、食事がとりづらくなり、その結果体が弱くなって痩せている人の割合が増える。さらに、認知症のリスクも高まる。
- ・みなみ野が含まれる片倉では、高齢化率が比較的低い。これは、七国などの近年新たに開発された地域があるからである。
- ・後期高齢者の社会参加状況では、片倉の特徴として、ボランティア活動に参加している人の割合が市全体や他地域と比べて低いことが挙げられる。おそらく、社会とつながるような様々な活動はしているものの、地域のために活動する方が少ない傾向にあるのだと思う。
- ・75歳以上の元気な高齢者を対象にした「健康アンケート」は、回答率が7割程度であった。要介護になるリスクとして、市全体平均と比べると、片倉では認知症、うつ傾向のリスクが若干高い。地区別にみると、みなみ野では認知症、口腔機能低下のリスクが他地域と比べて高い。
- ・週1回以上外出しているかどうかを閉じこもりの定義としているが、みなみ野では閉じこもりの割合が他地域と比べて低い。これは、駅に近く、買い物に出かけるなどの活動が活発であるから

だと思う。

- ・主観的健康観では、「とても健康だ」「まあ健康な方だ」と回答した割合が、みなみ野で8割以上を占め、市全体と比較しても高い。
- ・みなみ野では、「自分は孤立していると感じる」人の割合が低く、「どのくらい幸福ですか」という幸福度も高い。
- ・外出頻度は、週2～4回程度の人が多く、毎日外出している人も20%以上であるため、外出する機会が多い地域である。
- ・みなみ野では、8割以上に同居家族がいる。
- ・コロナ蔓延後は、集まりに参加していない人の割合が増えている。最近はコロナも落ち着きが見え始め、いろいろなイベントを企画・検討中だと思う。人とのつながりが、健康につながるということは研究データから明らかになっている。

(質疑内容)

なし

3 議題「中間とりまとめ(案)を考えよう」

(1) グループワークの係決め

会議資料をもとに、前回のみなみ野中学校区地域づくり推進会議(以下「推進会議」という。)での取組の振り返りをし、今回の話し合いの進め方について確認し、進行役(ファシリテーター)を選出した。

進行役:野牧氏 ※板書係は事務局が務めた。

(2) 中間とりまとめ(案)の修正・追加事項の検討

会議資料をもとに、中間とりまとめ(案)の修正・追加事項の検討を行った。なお、前回と同様に1グループで検討を行った。検討結果は、以下のとおり。

<検討結果>

1)「魅力」について

- ・「農的環境」という表現があるが、みなみ野で農業を行っているところはなく、自然塾などの活動でも生業として農業を行っているわけではない。「里山環境」と表現したほうがよい。
- ・「企業の研究所等が立地」という表現があるが、魅力に感じない。むしろマイナスに感じる。
⇒企業などとのつながりがあるということが魅力になるのではないか。
⇒「企業とのつながり、連携が可能」といった表現のほうがよいかもしれない。
- ・「文化」に関して入れられる要素はないか。
⇒七国には有名なラグビーチームがある。
- ・「災害リスクが比較的低い」という点を魅力として全面に出すべきだと思う。
⇒掲載順番を再考したほうがよい。
- ・「地域活動が盛ん」という表現があるが、町会のお祭りや学校のPTAもなく、特に子育て世代は地域活動が少ないと感じているため、その表現は適切でないと思う。

⇒みなみ野では個々の生活を大切にしたい人たちが集まっている傾向が強い地域であるため、「地域活動が盛ん」という表現はトーンダウンしたほうがよいかもしれない。

2) 「課題」について

- ・「(ア) 高齢化や人口減少に備える」はまちづくりを行うにあたって大きな課題であると思うが、この推進会議の活動の中で乗り越えられるかというところは疑問である。これを課題に挙げることは適切でないと思う。
- ・「(イ) コミュニティの醸成」が、「(ウ) 地域を引き継ぐまちづくりの担い手の確保」につながっていくのではないかと。
⇒現在のみなみ野では、地域に働く場所がないため、若者が出ていってしまっていると思う。
まちびらきから25年経ってニュータウンが次のステージに入り、新しく移住してくる人もいると思う。次の担い手としては「新しく街に入ってくる人」と「地域にいる次世代の人」の2通りあると思う。
- ・みなみ野では外出をする人が多いというデータが先ほどあったが、より外出を推進するには、ウォーキングや出かける場、つながりの輪が必要だと思う。
⇒駅前に人が集まれる施設があるほうがよい。駅前に例えば図書館があれば本を読み、多世代が集まり、さらに市民センターも併設していれば、さらに人が集まると思う。
- ・「(エ) 地域資源の有効活用」では、新しい施設等を作るだけでなく、今地域にある建物を活用することも該当すると思う。例えば、東京工科大学の会議室など、今後学生数が減少することを考えると、ますます使用する頻度が減るのではないかと。食堂の地元住民への開放を含め、地域で使用できるようになるとよい。
⇒新しい施設を建てるということは実現性が低いと思うので、空き家、学校、介護施設などの空きスペースの開放等、今ある資源をどう使うかという視点を持つべきである。
- ・現在みなみ野では、集う場所や憩う場所が不足しているという理解でよいか。(エックス都市研究所)
⇒不足ではなく、場所が点在しており、その場所のことを知らない人は活用できない現状がある。誰でも活用できるように、駅前などにまとめて配置することがよい。
- ・地域の足となるような、地域で集える場所に行くための循環バスなどの公共交通機関の整備があるとコミュニティの醸成が出来る。
- ・災害などの緊急時には地域力が重要になるため、日常生活の中でのコミュニティ、つながり、ふれあいが必要である。「(イ) コミュニティの醸成」には、緊急時の連携の土台作りの観点も入っていると考えられる。

3) 「アクションプランの柱(案)」について

- ・「①みんなが集える場をつくる」で場所を提供する際は、無償とするのか、有償とするのか。
⇒貸主によって無償か有償かは変わってくると思うが、「なるべくお金がかからないようにする」ということをキーワードに追加する必要がある。
- ・大学や企業が場所を貸し出すにあたって、貸し出すメリットがないと取組が進まないのではないかと。

- ⇒大学に関しては、文科省の評価基準として地域貢献という項目があるため、貸し出すことのメリットはある。
- ⇒企業に関しても、CSR活動をしたいが、地域となかなかつながりが持てないという課題があると思う。地域住民に会議室を貸し出すことなどで、地域との関係がよくなり、企業としてもメリットがあると思う。
- ・「①みんなが集える場をつくる」ことは、「③地域魅力を広く発信・共有する」と密接に関係するのではないかと。集える場所を地域住民に知ってもらうことで活用頻度を高めることが出来ると思う。地域住民に知ってもらうための手段としては、口コミ、駅のポスターコーナーの活用などがあると思う。口コミを主体として、SNSやチラシなども活用して周知できるとよい。

4) 「取組の候補(案)」について

- ・「私の居場所づくり」の居場所とは何を示しているのか。
⇒特定の場所というよりは、人とのかかわりが居場所なのだと思う。集う場所自体はどこでもよい。
- ・川口地区ではマルシェが特徴的な活動となっているが、みなみ野でもそれにあたる活動が出来るとよい。
⇒他地区でのマルシェは雨天決行で屋外開催が多い。みなみ野では学校以外に、駅前のホームセンターとタイアップして駐車場などで行うことが考えられる。また川口地区では市民センター祭りと同で行った。(未来デザイン室)
- ・イベント的な居場所または日常的な居場所のどちらなのか。(エックス都市研究所)
⇒どちらもだと思う。いろんな人のつながりの中で活動を行っているので、まとまったイベントがあってもよいと思う。みなみ野とえばこれをやっているというイベントがあるとよい。
- ・「発信拠点 みなみ野」で、市にHPを開設してもらい、地域で運営していくことが出来るとよいのではないかと。ネット上のプラットフォームをつくりたい。また、市民活動協議会が持っている人材バンクと連携できるとよい。

5) その他

- ・七国も含めて地域の魅力等を検討することでよいのか。
⇒まずはみなみ野中学校区としてまとめ、実際に活動を始めた際に七国と連携することを考えていただきたい。(未来デザイン室)
⇒今後七国でも地域づくり推進会議を設立するという事か。
⇒地域の状況に応じて、いずれ設立することになる。片倉つどいの森公園はどちらの地域に含まれるのかなどもあるとは思いますが、まずはそれぞれの地域で切り離して検討してほしい。(未来デザイン室)
- ・組織は作る時代、目的、年代層によって異なると思う。みなみ野の良さや資源をもう一度掘り返しながらか、地域づくりを検討していきたい。
- ・本会議で検討していることを学校に伝えてほしい。まちの将来像は学校との関係もあると思うので、まちづくりに関して教育の一環として議論してほしい。

- ・土日に学校を開放する場合は、誰が鍵の管理を行っているのか。
⇒鍵の管理は市のシルバー人材が行っている。(未来デザイン室)
- ・みなみ野の人間関係の魅力は、地域のコミュニティに束縛されないことだと思う。ゆるくつながることも残しつつ、濃厚なつながりをしたい人は年数回のイベントに参加できるようにしたい。
- ・まちが縮小せずに活性を持続するには、人の輪がたくさんあることが大事だと思う。
- ・子どもが大きくなるにつれ、通学・通勤の不便さからみなみ野を離れる人が多い。
⇒子どもを中心とした地域とのかかわりがないと、子どもが成長した後にみなみ野への執着が薄まり、引っ越してもよいと考えるようになるのではないかと。それを防ぐためには、子育て中から自分のつながりが持てるような環境・場所があると、みなみ野を離れる人が少なくなると思う。

6) 議論のまとめ

- ・本日の中間とりまとめは、これまでの成果がわかりやすくまとまっているので、基本的には現在のものをベースにする。
- ・「課題」の「(ア) 高齢化や人口減少に備える」は、地域づくりとして解決できないという理由で外す。
- ・「アクションプランの柱(案)」は、①～④がばらばらにあるのではなく、全てがつながっていると思う。特に情報発信をしっかりと行わなければ、集まってつながることが難しいという意見があった。また、若い人とつながるためには、学校とつながる必要があるという意見もあった。
- ・「取組の候補(案)」では、「私の居場所づくり」の具体的な場所として駅前などのイベントに使う場所と、日常的に活動する際にグループで使用する場所の2種類がある。
- ・「みなみ野のみどころツーリズム」では、「いろいろなテーマに応じたモデルコース・マップづくり」のマップ上に、居場所となるスポットを掲載すると面白いのではないかと。
- ・「発信拠点 みなみ野」では、多世代が気付きやすいようにネット上のプラットフォームを用意することに加え、口コミを活用することがよい。

7) 将来ビジョンの修正について

- ・「風の生まれるまち」という表現は、みなみ野小学校の校歌の歌詞から引用した。人が集まってつながり、活動を始めると新しい風が生まれるというようなイメージである。
⇒校歌が地域のシンボルになることで、みなみ野の風景やイメージが今後変化していても、シンボルとして持ち続けることができる。それが、地域の魅力やステータスになっていくと思う。
- ・「人や自然が循環する」という表現は、一度みなみ野から巣立っていった人が、再びみなみ野に帰ってくることをイメージしている。
- ・「循環する」という表現が伝わるのか疑問である。
⇒子どもたちにも伝わる表現がよい。「まじわる」、「いきいき」、「かがやく」、「のびのび」、「豊かに楽しむ」といった言葉が候補として考えられる。

4 議題「次年度の活動にむけて」

会議資料をもとに、事前ワーク、自主活動の内容及び次年度の活動について確認した。検討結果は、以下のとおり。

<検討結果>

1) ワークショップについて

- ・本推進会議とみなみ野の住民との間で温度差があるという意見があった。そのため、まずは本推進会議の活動を住民に知ってもらい、共感してもらおうというステップを踏めるようにしておく必要がある。ワークショップでまずやらなければならないのは、本推進会議の取組の経緯を説明することである。本推進会議で考えたことに対して、様々な意見を取り入れて計画を完成させたいので協力してほしいという趣旨をワークショップで伝えるべきである。
- ・ワークショップに活動団体の代表者が参加すると、ワークショップの成果を各団体にフィードバックしてもらいやすいのではないかと。また、町会長や地域産業団体の代表者も参加してもらえるとよい。
- ・市民センターみなみ野分館の職員など地域の実情に詳しい人の意見も必要であるため、そういった人にも参加してほしい。
- ・みなみ野にいる個人商店などの地域の人たちを発掘し、地域の人が地域のことを話す動画をまとめた。ワークショップに向けて取り組んでみてもよいかなと思った。

2) 次年度の活動の進め方について

- ・5年間をかけて行うアクションプランであることから、各年で行うことなどの時間のスパンを踏まえて検討したい。
- ・ヒアリングを実施することは継続的に行いたい。令和5年度(2023年度)5月に開催予定の第1回推進会議で再スタートするのでは間に合わないため、5月の推進会議までに自主活動をできればやりたい。
- ・アクションプランの柱ごとにチームを編成して議論していきたい。
→5月までに活動の材料を持ち寄り、修正すべき点等を検討し、その後グループごとに分かれて議論するような形にしたい。
- ・小中学校の保護者、幼稚園・保育園の保護者といったこれからの地域を担っていく世代の人にも参加してほしいが、休日に開催するとなると参加できないと思うので、平日の昼間に開催してはどうか。
- ・今後本会議への参加者が増えていった場合には、部会を組織して、各自が予定の合う日時で議論を進めることができるとよい。

5 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

1) 地域づくりフォーラムについて

- ・令和5年(2023年)1月28日(土)に開催した地域づくりフォーラムの様子を3月中旬にYouTubeにアップする予定である。ぜひご覧いただきたい。(未来デザイン室)

6 閉会

- ・次年度第1回の推進会議の日程等（予定）の確認を行った。
令和5年（2023年）5月20日（土）9：30～12：00 みなみ野小学校2階 家庭科室
- ・第5回会議の議事概要（案）の修正があれば、令和5年（2023年）3月17日（金）までに未来デザイン室へ申し出てほしいことを伝えた。
- ・未来デザイン室は、3月をもって解散となり、新しい組織に引き継がれる。体制は変わらないが、組織名が変更になることも伝えた。

以上

2023年(現在)

2040年に向けて ※取組は、2023~2028年の5年間で開始

魅力

- ・“五山五丘三溪一流”構想の豊かな公園緑地等(みなみ野の丘公園、栃谷戸公園など)。
- ・身近な自然、農的環境、兵衛川の桜並木、四季の花の彩。
- ・整った都市基盤。安心感のある広い歩道。
- ・良好な住環境のある戸建住宅。
- ・商業施設、教育施設等の公共施設が立地し、利便性が高い。
- ・東京工科大学ほか、業務、企業の研究所等が立地。
- ・地域活動が盛ん。
- ・災害リスクが比較的低い。

×農的環境
⇒○里山環境

企業の研究所は魅力?
⇒七国に結構ある
⇒連携可能・つながり
⇒文化?

地域活動が盛ん?
⇒お祭りが少ない
⇒学校活動も少ない
⇒地域活動が希薄

「魅力」の掲載順を検討すべき
⇒災害リスクを一番初めにするのは?

課題

△ 高齢化や人口減少に備える ⇒課題としてふさわしくない
・市内のニュータウンの中では比較的新しいまちであるが、将来の高齢化や人口減少に備えるまちづくりが必要。

イ コミュニティの醸成

- ・町会の加入率が下がるなど、コミュニティが希薄になるおそれ。
- ・地域の情報共有、助け合いのためには、コミュニティを醸成していく必要がある。
- ・年代や立場によって考えていることが異なる。このギャップを埋めるつながりをつくる仕組みが必要。

ウ 地域を引き継ぐまちづくりの担い手の確保

- ・将来の高齢化、さらには人口減少を見据え、若者と世代交代をする仕組みが必要。
- ・大学、地元企業の立地がある一方で、地域とのつながりが希薄。大学や地元企業との連携を深めつつ、まちづくりの担い手の確保が必要。

エ 地域資源の有効活用

- ・地域の魅力を維持し、高めていくためには、地域を取り巻く豊かな自然環境、公共施設や商業施設、大学・企業立地など、地域資源のさらなる有効活用が必要。

循環バスの範囲を広げ、コミュニティの場に行きやすくなる
とよい

将来ビジョン

(仮置き案) 集まって、つながって風の生まれるまち
～人や自然が循環する八王子みなみ野～

アクションプランの柱(案)

子どもの成長に伴う生活圏の拡大には不便な地域?
⇒出ていっても戻ってきたく
なるまちに

まちがシュリンクするの
⇒中心商店街があると人の輪が作れる

古くからの地権者と新しい住民がまちを作ってきた

- ・まじわる
- ・いきいき
- ・かがやく
- ・のびのび
- ・豊かに楽しむ

日常的+イベント的

取組の候補(案)

○私の居場所づくり

- ・住民が思い思いに過ごせる、多世代の憩いの場づくり。
- ・カフェ、コミュニティビジネス、子どもの居場所、発表会(部活、吹奏楽など)、“選べる”憩い。
- ・公共施設や公園、店先・個人宅など、まちの様々なスペースの活用。居場所の発掘・空間をシェア。
- ・地元行事の充実(内容、参加者など)、祭りの復活など、既存活動を有効活用。
- ・居場所のネットワーク化。

居場所とは場所ではなく人とのつながりなのでは?

自分を中心に周りにつなげていける場を

駅前の市道が集まりやすいのではないかとイルミネーションをやっていた

多世代が集まれるマルシェができるような場所は?

① みんなが集える場をつくる

集い場の提供は無償か、有償か?
⇒予算はおそらく自前になる
お金をかけない!

集い場を提供するメリットを作る必要がある

②のために①がある

② みんなが楽しくつながる機会をつくる

・ゆるいつながりでいたいと思う人も多い
・しっかり繋がりたい人はイベントで交流

- ・誰もが楽しく、仲良くなれる機会づくりに取り組みます。
- ・豊かな地域資源を活かして取り組むことで、みなみ野を知ってもらえる機会にもなります。

②と③も関係する

③ 地域魅力を広く発信・共有する

- ・みんなの集いの場、つながる機会づくりを通じて、地域の魅力を広く発信・共有していきます。
- ・アピール力の強いプロジェクトにチャレンジします。
□口コミ+SNS+チラシ

①と③は密接な関係がある

④ 若者の力で、次代につなぐ

学校の活動とつなげる

- ・積極的に、大学生などの若者に参加してもらえまちづくりに取り組みます。
- ・参加を通じて、地域の魅力、活動を次の世代につなぐ人が育つ、好循環のまちづくりを目指します。

○みなみ野のみどころツーリズム

- ・みなみ野の見どころをめぐる散策ツアーの企画・運営。
マップに使える場所
- ・いろいろなテーマに応じたモデルコース・マップづくり。
- ・自然観察、写真コンテスト、俳句大会、農業とのふれあい、健康、ダイエットなど、様々な学び・体験付。
- ・スペシャリストを交えた、地域の魅力発信の機会にもなる。
- ・新たなみどころの発掘・共有、さらには、つくることにチャレンジ。

○集え、若者

- ・地域活動への若者参加の促進。
- ・若者と地域が win-win になるための仕掛け、仕組みづくり。
- ・各取組で実装
- ・東京工科大学や地元企業との連携。

○発信拠点 みなみ野

- ・さまざまな地域情報の集約化、情報発信。
- ・モデルコース・マップの発信、ツーリズム告知や、居場所のシェア、居場所イベントのPRにも活用。
- ・ホームページ、SNS など、いま時のツールの活用。

ネット上のプラットフォーム + 口コミ

まずはプロトタイプをつくりたい人材バンクと絡めてもよい

ぐるっとママ八王子のようなサイトがあるとよい
ネットワークリンクが必要

市民活動協会との連携

市のテーマ

カーボンニュートラル

地域防災

公共施設マネジメント

検討の視点

DX